

随 想

農林水産技術会議ができたのは昭和31年であったが、その発足当初から5年余り研究調整官をつとめたことがある。農林水の研究機関が協力して、自らの研究推進にあたる試みもスタートし、活気に満ちていた。それまで、研究者相互の連けいは専門分野にとどまっていたが、異なる分野でも基礎的研究の面で共通するところが多く、私自身この機会に学ぶところが多かった。その後は、専ら蚕糸試験場の仕事にあたったが、退職後の今日は女子大学で教育の一端を担うようになった。居場所は異なるが、かつてのことが今日の問題として浮かび、一般の大学の教育にも、今後資源や食糧、環境の問題など重要になってくるのではないかなどと考えながら、毎日九段の坂を登って大学に通っている。農林水産省の分庁舎も程近く、米価の季節になると鉢巻姿の農家の人々にお会いするのはどうしたことであろう。食糧問題として減少傾向の米の消費をいかにしてふやすかは重大であるが、見逃されているのは米の食べ方の問題であろう。日本の米食では、昔食糧の保存からはじまったであろう味噌、醤油、漬物、塩蔵の魚貝などと今日も切り離せず、塩分の過剰摂取を伴ないやすい。塩分の過剰は、血圧を高め、循環器系統の疫病にもつながることは広く理解されつつあるところで、これに対して洋風の食事は塩分を節しやすい。食事は健康の保持のためであり、米食のすゝめには、食べ方の改善方策が基本として必要であり、研究教育の面、学校の給食、家庭への普及の面など、地道な推進が緊要ではなかろうか。

〔 財団法人 日本植物調節剤研究協会理事
大妻女子大学家政学部 教授 清水正徳 〕

目 次

(第12巻第5号)

除草剤の連年使用が土壌の理化学性に及ぼす影響……………	2
＜熊本県果樹試験場 岡島量男・金川英明・岩本数人＞	
1. はじめに……………	2
2. 試験方法の概要……………	3
3. 樹体栄養について……………	3
4. 処理区内草量の年次別変化について……………	3
5. 土壌の物理性……………	4
6. 土壌の化学性……………	5
7. 土壌中の微生物活性……………	7
8. おわりに……………	8

昭和52年度秋冬作野菜花き関係除草剤・生育調節剤試験成績概要……………	9
＜農林水産省野菜試験場 西 貞夫＞	

昭和52年度秋冬作芝生関係除草剤試験成績概要……………	28
＜財団法人 日本植物調節剤研究協会＞	

外国文献抄録……………	31
-------------	----

新登録除草剤一覧……………	33
＜農林水産省農蚕園芸局植物防疫課＞	

新登録生育調節剤一覧……………	34
＜農林水産省農蚕園芸局植物防疫課＞	

植調協会だより……………	36
--------------	----